

平成30年度

思い出いっぱいろう！

修学旅行

しおり 

11月11日(日)～12日(月)



< 1 日目 > 11月11日(日)

集合時刻 6:30

学校 → 滝野・社IC 中国道 → 赤松PA → 中国吹田 近畿道 →
6:50出発 7:45 ~7:50

→ 法隆寺IC → **法隆寺** →
9:00 ~10:00

奈良公園【南大門・記念写真・英語活動 → 大仏殿・二月堂・三月堂 →
10:40着 10:50? 11:30 11:30? 12:40

→ 春日野(昼食・買い物)・春日大社】 → **清水寺散策**(見学・買い物) →
12:40? 13:40 14:00発 15:00? 17:30

→ ホテル(夕食～入浴) 消灯
18:00着 19:00 20:00 22:00

(1 日目の昼食……春日野 TEL0742-26-3311)

< 2 日目 > 11月12日(月)

ホテル → **銀閣寺** → **二条城** → **丸益西村屋**(京友禅体験)
8:10発 8:30? 9:10 9:30~10:20 10:30~11:30

金閣寺 → **映画村(昼食)** → 沓賭IC(京都縦貫道路) 亀岡IC →
11:50~12:40 13:00~15:15

→ 西紀SA(お手洗い休憩) → 氷上 → 学校
17:45ごろ着

(2 日目の昼食……映画村 TEL075-662-1230)

宿泊場所 松井別館 花かんざし Tel. 075(221)6688
京都市中京区六角通高倉東入堀之上町126



修学旅行1日目[11月11日(日)]

1 修学旅行へ旅立ちの朝「行ってきま～す」

11月11日(日)、修学旅行へ出発の朝、「そろそろみんな来る頃ですね。」… そんな会話をしていると、元気な声が聞こえてきました。ピロティに出てみると、「おはようございます」とみんな笑顔いっぱい、最高にいい顔しています。保護者の皆様、早朝より見送りをありがとうございます。そして6時30分、出発式が始まりました。「社会や英語などで頑張ったことを生かしてきます。保護者の皆様、準備をありがとうございました。」児童代表Nさんが、ハキハキした口調であいさつをしたあと、送っていただいた保護者の皆様に、ちょっと照れながら「行って来ま～す。」さあ、修学旅行へ出発です！きれいに澄み渡った空の上では、青空がニコニコ笑っていました。



2 サッキー(ガイドさん) それは贅沢です

「バスの中でのルールを守ります。2日間、よろしくお願いします。」… ガイドさん、運転手さんにきちんとあいさつをして、奈良・京都へ旅が始まりました。修学旅行の行程や、バスの中での注意事項、見学先での約束等々、まずは真面目にお話を聞いたあと、ガイドさんから「私にニックネームをつけてほしいな。」とのリクエスト。「名前は沙季だから… さっちゃんはどう？」「でも、さっちゃんはいるよ。」「ああ、そうか。」… するとだれかが「金太郎！(^▽^)」これこれ何ということをして！ かと思えば「サッキー ヨッキー マッキーや」などと次第に大騒ぎ状態へと発展。結局は「サッキー」に決定しました。金太郎じゃなくて良かった。「サッキーって呼んでね。」「はい」ここでガイドさんへの質問開始。「好きな男性のタイプは？」すると何とサッキーは、「ううん、そうですね…身長が高くて、竹内涼真みたいで、優しくて、お金持ちな人！」「(6年生)・・・ おらんやろう、そんな人」かなり贅沢なサッキーです。

3 各班で考えたクイズ・ゲーム 大盛り上がりのバスの中



サッキーが作られた座席表に、名前と自己紹介を書いていくのと平行して、各班がそれぞれ考えてくれたクイズ・ゲームをやることになりました。サッキーも「せっかくみんなが考えてくれたクイズ・ゲームを優先してあげたい。」と気を遣っていただいています。各班からは、「担任の先生クイズ」「心理テスト」「ラブレターゲーム」等々、それぞれ趣向を凝らした楽しいクイズ・ゲームが登場。大いに盛り上がります。また、6年生のとても協力的な態度とチームワークの良さが嬉しいです。と、ここで驚くべきゲームが始まりました。その名は「本気でジャンケン」！やることはいたって単純で、ジャンケンをしていってチャンピオンを決定するだけ。ところが「勝ったときは本気で喜んでください。」というもの。「えっ、ジャンケンに勝っただけで???」ところがこのゲーム、やり始めるともう大変です。「やった～！ よっしゃ～！ イェーイ！」と、自分から気持ちを盛り上げています。その後「本気でしりとり」も登場。この「本気シリーズ」、いろいろな活動に使えそう。

4 法隆寺 世界遺産 スカイツリーのモデルにも…



「寝ている人を起こしてあげてくださいね。トンネルを抜けて、奈良県へと入ってきました。」… 法隆寺が近づいてきています。姫路城と共に日本で初めて世界遺産に認定された、聖徳太子ゆかりの寺院であり世界最古の木造建築群。気持ちが高鳴る中、修学旅行での見学第1番手、法隆寺に到着です。南大門前には「大和川の水の氾濫をくいとめた」とされる有名な「鯛石」がありました。なるほどくっきりと鯛の輪郭を形どっています。「『鯛石』を踏むと健康になったり賢くなったりすると言われていました。」と聞いた6年生たち。しっかりと「鯛石」を踏みしめながら門の中へ。「中門」は修理中で、完成は12月頃となるため、残念ながら「あうんの呼吸、阿形(あぎょう)と吽形(うんぎょう)」で知られる「金剛力士像」にはお目にかかれませんでした。そう言えば昨年度、「来年度の修学旅行のときにもまだ完成していないのか…。」などと話をしたのを思い出しました。少し歩くと「五重塔」が右手に見えてきました。「五重塔」なのに屋根が6つ? 実は「一番下の屋根は、建物を風雨から

守るためにあとからできたものです。」「東京のスカイツリーは『五重塔』がモデルになっています。」… 知らなかったです。その後、「五重塔」内の釈迦涅槃像を見学して、「大講堂」「金銅」内で薬師三尊像・釈迦三尊像等を見学。「鏡池」へと移動してきました。風流でロマンチックです。少しゆっくりしたい気持ちになりました。最後に、法隆寺内で最も新しい建物「大宝蔵院」に入って、夢違観音像・玉虫厨子・聖徳太子の生い立ち・百済観音立像等々、大変貴重な仏像や工芸品を見学。さすが世界遺産法隆寺です。



～ 鏡池にて 正岡子規 あの名句はどのようにして生まれたのか ～



正岡子規が明治28年10月に読んだ、名句の句碑が立つ「鏡池」を訪れました。「この場所であの名句が…」心が落ちつきます。

子規は東大寺裏にある對山楼という宿屋に泊まった。夕食後「柿を食いたい」と頼むと、まだ十代かと思える女中が大皿に山ほど柿を盛ってきて剥いてくれた。柿を食べていると、寺の鐘が鳴るのが聞こえてきた。女中が「東大寺の鐘です。」と言って障子を開けると、東大寺は頭の上にあった。女中は「夜は鹿が来て鳴きます」とは言葉を続けた。

翌日、鏡池のほとりにある茶屋(現在 句碑の位置)で、法隆寺西円堂の鐘の音を聞いた子規は、昨夜のことを思い出して唱った一句…ここにあの名句の誕生となる。子規、28歳の秋だった。對山楼は現在、奈良天平俱樂部という日本料理屋になっている。また、子規が滞在した東大寺が望める部屋のあった場所には庭がつくられ、「子規の庭」と名付けて一般公開されている。



5 奈良公園 思い出いっぱい 鹿いっぱい 世界の国から人いっぱい

(1) 英語活動「ホントに親切 外国人観光客の皆様」

奈良公園に到着。辺り一面鹿だらけ。でも、まずは鹿より記念撮影です。みんなの前に鹿が集まるように、カメラマンがカメラを持ってエサを投げて … 鹿が集まってきました。人も鹿も絶好のシャッターチャンスをついて「カシャ」 さすがプロです。

さて、ここからは「英語活動」の時間です。授業で習った英語を使って外国の方にインタビュー。一緒に写真を撮ってもらって、最後は折り紙をプレゼント。活動範囲は東大寺南大門から大仏殿への入り口、中門までのわずか数百メートル。でも、外国人観光客の多さには驚きです。アメリカ、アジア、ヨーロッパ … どうやらツアーで来られている方がたくさんおられたようです。さて「6年生たちはどうしてる？」 … 発見しました。外国からの老夫婦と話をしています。英語を使っています。また、その老夫婦も一生懸命理解しようとしていただいています。ニコニコされていて、優しくそうで嬉しそう … まさにコミュニケーションバッチリです。当然、質問もされるのですが、「問い返されてもわからない。」のは当たり前。まだ小学生です。でもそこは笑顔でカバー。「ごまかすことも生きる力」と割り切りました。短い範囲と時間の中で、ひっきりなしに英語活動を行った6年生たち。「ホントに親切な人ばかり」とホクホク顔でした。



(2) 大仏殿(奈良の大仏) → 三月堂(東大寺最古) → 二月堂(お水取り)

中門を通り抜けると、「奈良の大仏様」が座っておられる大仏殿が見えてきました。この大仏殿は「鎌倉時代・江戸時代の2度にわたって兵火により焼失したが、いずれも再建。しかし、86mあった幅は、江戸時代の再建時に3分の2程度に縮小。毎年、元日と盂蘭盆(うらぼん)最終日である8月15日には、正面唐破風(からはふ)下の観相窓が開かれ、大仏様の顔を外から見るができる。ライトアップされていてとてもきれい。」 … そんな大仏殿の中へと入っていくと、いきなり目の前、いや目の上に「奈良の大仏様」が現れました。「オォ～」と思わず声が出ます。大きいことは知っていましたが、



実物を見るとその巨大さにやはりビックリ。台座から測った高さは18.03m、大仏様だけだと14.98m。そして、右手は「人の背中を押してあげる」、左手は「困っている人を救ってあげる」ための格好をされています。また、現在の大仏殿には、大仏様の左右に「虚空蔵菩薩坐像」「如意輪観音菩薩坐像」が、後方左右に「広目天立像」「多聞天立像」という4体の仏像(四天王立像)が納められています。さて、ここに来たら必ずやらねばならないこと、それはもちろん、「大仏様の鼻の穴と同じサイズ」の「柱の穴くぐり」です。この日はすごい人だったため、時間的に無理かと思われたのですが、添乗員さんが順番交渉していただいたおかげで実現できました。感謝です！

その後、「中心を叩くと3日以上鳴り続ける」という鐘楼、2度にわたる東大寺の火災を逃れた東大寺最古の建物である「三月堂」、そして3月12日(旧暦では2月12日)の深夜から明け方にかけて行われる「お水取りの儀式」で有名な「二月堂」を最後に訪れ、東大寺をあとにしました。さぁ昼食です！

体をひねって こんにちは！



(3)「春日野」で 緑・青空・おいしい食事 鹿とたわむれ 腹ごなし



やってきました昼食時間。しゃべって笑ってかなり歩いて、そろそろお腹もペコペコです。食事場所は奈良公園内にある「春日野」さん。途中、かわいい鹿たちがすり寄ってきて、ついつい手を触れたいくなりますが、「食事までは、絶対鹿に触らないように。」そんな厳重注意を受けています。「こっちに来ないで！」と逃げるしかありません。それに、うっかりすると鹿のフンを踏んづけてしまいそう。細心の注意を払いながらひたすら歩いて行くうちに「春日野」さんがやっと近づいてきました。最後の難関、坂道を上ると、「いらっしやいませ。」「お待ちしておりました。」と店員さんからの温かいお出迎えが…。階段上がって2階の食事場所に入ると、ひょうたん型の器が並べられています。楽しい器に「へえ～」とニッコリ。先生の話はそこそこにして、さっそくいただくことにいたしましょう。「手を合わせて、いただきます。」揚げ物、卵、ウインナーなど、がっつりメニューをしっかりとおいしく、お腹いっぱいいただきました。

さて、食事が終わると初めての買い物タイム。修学旅行の買い物スポットは、「春日野」「清水寺参道」「東映太秦映画村」の3カ所となっていますが、これが結構難しい。早い段階でついつい買い過ぎてしまったり、「次におおう。」と思いながら買えなかったり…。「春日野」では、どんな買い物をしたのでしょうか。外に出てみると、やっぱり鹿がいっぱいです。奈良公演の鹿の数は、何と1200頭。そのうちオス：メスの割合は3：7。でもオスがもっと多い気がするのですが…。そのオスは10月中旬に「つの切り」が行われるのだそうです。鹿せんべいをお目当てに飛びついて来る鹿たち。「逃げるとどこまでもついてきますよ。」でも、かえってそれを楽しんでいる様子です。鹿とはしゃいでいるうちにそろそろ時間となりました。～「春日野」で 緑・青空・おいしい食事 鹿とたわむれ 腹ごなし～

奈良「法隆寺」「大仏様」「春日大社」をあとにして、次なる目的地、京の都を目指して出発します！



6 清水寺「眺めさいこ～…でもこわ～い(清水の舞台) どうか○○になりますように(音羽の滝)」



京都へと向かうバスの中、班のクイズ・ゲームが再開。「名前ぐちゃぐちゃクイズ」「心理テスト」などで盛り上がりを見せる中、約1時間後、外国人観光客に「日本で行って見たい観光地」のNo.1に選ばれているという清水寺に到着です。「仁王門」前で記念撮影をしたあとは、弁慶が使っていたとされる、重さ17kgの小錫杖と、96kg大錫杖、そして12kgの高下駄を見学。17kgの小錫杖は何とか持ち上げますが、96kgはピクリともしませんでした。この清水寺、現在は2008年から開始された「平成の大改修(修理)」の最終段階に差し掛かっており、「本堂の屋根の葺き替え工事」の真っ最中。そのため、あの有名な「清水の舞台」は通常より狭くなっていますが、絶景を見渡すのには問題なし。「うわ～きれい(^0^)/でも、こわ～い(◎◎;)」



さて、長蛇の列となっている「音羽の滝」へと降りてきました。落ちてくる滝の水を柄杓ですくって、それを手にためて飲みながら、「学問・恋愛・健康」のどれかひとつの願いを唱え、願いが成就するとか。立ち位置から水の落ちるところまで距離があるために、体を乗り出し、腕と柄杓をいっぱい伸ばして水をすくいます。苦勞してすくった水を飲みながら、みんなは何の願いは唱えたのでしょうか。

清水寺から駐車場までの帰りの参道は、2回目のお買い物タイム。これは、みんなが最も楽しみにしているひとつでしょう。何と言っても興味ある品物がいっぱい。おいしい食べ物もいっぱい。明日の「映画村」での買い物のことや「家族へのお土産」のことも考えながら、上手に買い物ができたでしょうか。手荷物さげて帰ってきた来た6年生。全員時間厳守で集合できたことにも感心しました。

7 1日目終了 本校初の「ホテル 花かんざし」さんで ぐっすりお休み … できたかな!?

楽しかった1日目終了。今年度、初めて泊まるホテル「花かんざし」さんに到着です。「修学旅行の団体さんに大人気」と、添乗員さんが言われる通り、とてもきれいなホテルです。体育座りでロビーに集合。ホテルの方にあいさつをして、貴重品を預けます。セレモニーが終わったら、みんな「やる気満々？」の様子で、部屋の中へと入って行きました。「修学旅行のお楽しみ 第2弾」の開始です。

19時から夕食ですが、各部屋単位で食事が配膳されるため、部屋ごとに「いただきます。」を言いました。ハンバーグ・揚げ物・漬け物・茶碗蒸し・ご飯にパン、もちろん野菜も … かなり品数も豊富です。会話もはずみ、楽しく食事をいただいていた最中のこと、女子のひと部屋で、思いもよらぬ嬉しいサプライズが起きました。それは一体何かと言うと …。

ホテル「花かんざし」さんからの サプライズ 「Happy Birthday」の贈りもの

この日、12歳の誕生日を迎えたYさん。6年生はいつも給食の時間に、誕生日の人に「Happy Birthday」をみんなで歌ってお祝いしています。そこで、この日の夕食時、2部屋の女子全員がYさんの部屋に集合して、「Happy Birthday」をお祝いしました。幸せっぱいのYさんですが、そのあと何と！ ホテル「花かんざし」さんからも、サプライズのプレゼントが！ おめでとう(^▽^)

修学旅行の宿の中は、「青春の思い出」がいっぱい詰まる、忘れられないひとときです。男子は全員同じ部屋、女子の部屋は2班に分かれて、遊んで笑って語って食べて … きっと子どもたちにはわからない、話の花が咲いたに違いありません。



～ サツキーから教えてもらった「あんなこと・こんなこと」 ★読む価値あり 必読です！～

(1) [奈良] 鹿は神の使い「三作(みのさく)の石子詰め」

寺小屋で習字の稽古中だった、13歳の三作(みのさく)のところに、春日大社の鹿がやってきて、三作の習字草紙を口にくわえて食べてしまった。そこで三作は鹿を追いつつ、けさん(今の文鎮)を投げつけたところ、鹿の急所に命中。追い払うつもりが殺してしまった。当時、鹿は「神の使い」とされており、三作はその罪によって寺の東の深い穴に入れられ、死んだ鹿と抱き合わせにして石を詰め込んで生き埋めにされてしまったという。

(2) [京都] 京都タワー建設にむけて「お東さんのローソク」

「京都タワー」は「お東さんのローソク」と言われているが、それはなぜ？ 京都タワー建設については、当初「古都 京都の景観を損ねる」と、市民からの反対が強かった。そこで市民の賛同を得ようとタワーの形を「ローソクにする」ことを提案。これにより市民の納得を得た。東本願寺のそばにあるため「お東さんのローソク」と呼ばれている。高さが131mである理由は、当時の京都の人口が131万だったため。※ただし、設計者は「灯台」をイメージらしい。

(3) [京都] 幸運を運ぶタクシー「四つ葉・二葉(双葉)タクシー」

京都には、全タクシーの中で4台しか走っていない「四つ葉のタクシー」と、それより少ない2台しか走っていないという「二葉タクシー」がある。もし、お目にかかれたら超ラッキー。そう言えば昨年度、この2種類のタクシーを発見するという信じられない幸運に恵まれたが、今年は一体どうだったのか。「まさか2年連続なんて …。」その結果はこの続きをご覧ください！

修学旅行2日目[11月12日(月)]

1 2日目の朝「早く目覚めて テキパキ片づけ おいしく朝食 さあ、出発！」



11月12日(月)、2日目の朝です。「あれ？天気が…」あんなに良い天気だったのに、曇っています。さて6年生たちは、「オォ、すごい！もう部屋の片づけをせせとやっています。多くの子が、かなり早くから目覚めていたそうです。歯磨き・洗面もテキパキと終えたら、次の行動のことを考えられる…そんな6年生たちです。中には眠そうな子もありますが、やるべきことはきちんとやっています。「昨日は寝ましたか？」と聞くと、「う…うん。」と怪しい返事が返ってきました。でも、そこは深く追求しません。少なくとも、周りに迷惑をかけないように過ごすことはできていました。7時に朝食。あっさりお鍋に卵、汁物等々、ヤクルトも飲みました。朝からしっかりと食事をして、8時にロビー集合。この段階になると、体も気持ちもエンジン全開状態です。お世話になった「花かんざし」さんにお礼の言葉を言って、バスに乗車。「さて、天気はどうなるだろう？」…でも、6年生たちは気にする様子もなく、バスの中での楽しみ、開始です。

2 銀閣寺「巖か 風流 心落ちつくたたずまい」



修学旅行2日目。見学1番手は銀閣寺です。「足利義満が建てた金閣寺に負けないように」と、その孫にあたる足利義政が建てた銀閣寺。さて、ここでサッキーから質問です。「金閣寺の正式名称は何ですか」—これは、6年生からすぐに「鹿苑寺」という答えが返ってきました。「では銀閣寺の正式名称は？」—「…」サッキーから「あれ？」といった反応が…。これには6年生から返答がありません。『慈照寺』と言いますよ。」これは覚えておきましょう。サッキーの説明は続きます。「祖父の義満と比べると、政治的能力には著しく欠けていたと言われる義政ですが、庭造りにおいては『天才』と言われるほどの優れた能力を持っていました。その素晴らしさを示す代表的な造作物が、『向月台』『銀沙羅』です。」そんな



話を聞いているうちに、駐車場に到着。バスを降りて、坂道を上っていくと、目の前に巖かな門が見えてきました。その門を通して中に歩いて行くと、すぐに銀閣寺の姿が現れてきました。1階部分は「書院造り」2階部分が「仏殿造り」になっており、その質素なたたずまいは、見るだけで心が癒され、落ちつきます。また「お月見のとき、月の光を反射させて本堂を照らす」ために造られたという(別説あり)「向月台」と「銀沙灘」が、その風流さを一層引き立たせます。「格好いい」という感想もあり。でも、何であれが銀なの？」と聞いてきた児童がいたので調べてみると、「銀閣寺と呼ばれ始めたのは江戸時代以降、金閣寺に対して名付けられた」のだそうです。

「二葉(京都で2台)」「四つ葉(京都で4台)」タクシーに遭遇 松井小学校 修学旅行 2年連続の快挙



とまっています。「松井小学校 修学旅行、2年連続、二葉・四つ葉タクシーと遭遇。」ホントにこんなことってあるのでしょうか。1200台あるという京都のタクシー。四つ葉は京都で4台、二葉は京都で2台しかないんです！



3 二条城「ここで大政奉還が行われたのか…」



二条城は、「城」という名がついていますが、石垣も堀も浅く、他の城とは違う造りをしています。これはなぜなのでしょう。サッキーの説明によると、「徳川家康が、徳川家の威厳を示すために建てたもの」であり「お城のために建てられたものではない」からだとか。また、二条城は「大名の宿泊所」であり、今でいう「ホテル」のような役割をしていたのでそうです。また、かの有名な「ウグイス張り」の廊下は、三代将軍である徳川家光以降に造られたものであり、「400年以上張り替えられていない」そうです。

超豪華な装飾が施された唐門を通り抜けて、そのすぐ右手ですばやく記念撮影。正面には、威風堂々とした「二の丸御殿」が見えます。ここでは絶対「障子やロープ、壁などを触らない」また「大きな声で話をしない」ことを守ります。さすが世界遺産です。数ある京都の重要建築物の中でも、最も警備の厳しいところなのだから。ちょっと緊張。重々しい雰囲気の中、静かに靴を脱いで「ウグイス張り」廊下へと進みました。

「廊下が張り替えられていない」ということは、その昔「将軍様が踏みしめた廊下」を歩いているということです。「キュキュ」という音を耳にしながら、まずは「遠侍」という部屋へ。ここは、一の間から三の間まで、ふすまに勇壮な虎と豹の絵が描かれていることから「虎の間」とも呼ばれており、将軍や老中との面会を待ったための「控え室」のような部屋です。虎の絵は、「強くて怖い徳川家がいる」ことを物語っています。また、徳川家康が豊臣秀頼と会見を行った際、「大坂夏の陣」の決意をしたのもこの部屋です。すごいです。「式台の間」では、狩野探幽が描いた「永遠の繁栄」を表すと言われる松の障壁画を見ることができました。この部屋で大名と老中が取り次ぎを行い、次の「大広間」へと続いていきます。「大広間」は、4つの間に分かれていて、その中の「一の間」は将軍が座る一番格式高い部屋として、「二の丸御殿」の中でも最も豪華なつくりとなっています。扉の向こうには、「武者隠し」という部屋があり、慶喜を殺そうとする者が現れたときには、ここに隠れていた武士たちが一気に出てくるのだそうです。1867年、徳川慶喜が「大政奉還」を発表し、江戸幕府が幕を閉じることになったのはこの部屋。「ここで『大政奉還』が行われたんだ!」ゾクゾクします。置かれている人形は、江戸前期の大名が、将軍にお目見えする場面を再現したもので、「大政奉還」のときの場面ではないそうですが…

その後の部屋からは、「ウグイス張り」ではなくなり、将軍のプライベートルームと言える部屋になります。大広間の二の間である「黒書院」は、将軍のお気に入りの大名しか入れてもらえない部屋で、「大政奉還」の相談をしたという部屋。また、三の間である「白書院」は、将軍が食事をしたり寝たりする部屋で、家族しか入れてもらえない部屋。そして最後の四の間は、ふすまに「松と鷹狩り」の絵が描かれており、らんまは、一方から見ると「花」、反対側から見ると「鳥」がデザインされているという、超有名で豪華ならんまがある部屋です。「へえ～、ほんまやあ」

世界遺産、二条城は、息を飲むような重々しさに包まれており、6年生たちの表情も険しかった。



サッキーからの質問：ウグイスの鳴き声は「ホーホケキョ」なのに、「キュキュ」っとなる床を、なぜ「ウグイス張り」って言うの？

「ウグイス張り」が造られた理由のひとつに、「来客や何者かが忍び込んできたときの警備のため」ということがありました。つまり、あの「キュキュ」という音は、「危険を知らせるための音」ということになります。では、なぜその「キュキュ」がウグイスなのでしょう。実は、ウグイスは、何らかの理由で身の危険を感じたとき、それを仲間に知らせようと「キュキュ」と鳴くのだそうです。つまり、ウグイスの「キュキュ」は、警備を意味する一だから「うぐいす張り」なのです。

—「ウグイス張り」の音は、どうやって出ているの？—

特殊なかすがいが打ち込んであり、人が歩くことによって重みがかかり、かすがいが上下に動いて音が鳴るようになっています。「それが見せてもらえる」ということで、床下をのぞき込んで「へえ～」



4 京友禅体験「丸益西村屋さんにて」

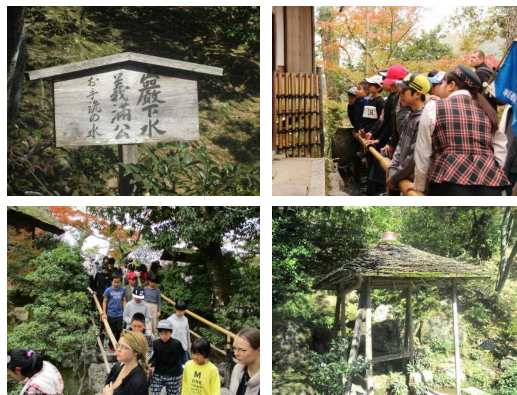


京都の伝統工芸の代表と言えば「友禅染」でしょう。その「入門コース」（「本格」「創作」コースもあるそうです）を体験させてくれるのは、「京友禅体験工房」の老舗「丸益西村屋」さん。ここには「二条城」から歩いて移動、20分で到着しました。工芸士さんから丁寧にやり方を説明していただき、早速、作業開始。配布されたハンカチをいろいろな絵柄に染めていきますが、どれも美しい柄ばかりで、迷ってしまいます。限られた時間の中での作業ですので、早く決断しないと…1つ目には時間がかかった児童たちでしたが、2つ目以降は、ハンカチのイメージが頭の中でできてきたのでしょうか。絵柄や色の決定が早くなりました。「そろそろ完成させてください。」と工芸士さんから声がかかります。「もうちょっと時間がほしい。」という人が多かったようですが、何とか急いで作品を完成。「優雅な柄」「勇壮な柄」、「素朴なな色彩」「鮮やかな色彩」等々、個性溢れる魅力的な「友禅染」ハンカチのできあがり。修学旅行の素敵な「お持ち帰り」となりました。

- ①型紙の中から絵柄を選ぶ。絵柄の数は数百種類
- ②作業板の上にハンカチを広げ、生地の上に型紙を乗せる。
- ③ハケに染料をつけて、ペーパーの上でのばす。
- ④型紙の上にハケをのせ、染料を摺り込んでいく。絵柄によって、1枚で完成するものと、数枚重ね塗りするものがある。



5 金閣寺「金箔20万枚！まるで写真を見ているような美しさ」



次なる目的地は金閣寺。「大文字山」の勇壮な姿を正面に眺めながら、サッキーからの復習質問です、「銀閣寺の正式名称は慈照寺。では金閣寺は？」6年生から「鹿苑寺」と正解が出ました。どちらも忘れずに覚えておきましょう。元々、3代将軍足利義満の別荘だったという金閣ですが、義満の遺言により寺となりました。三層の造りとなっており、一層は寝殿造り、二層目は武家造り、三層目は唐様の仏間となっています。二層目、三層目には、20万枚というすごい数の金箔が張られています。一層の寝殿造りには金箔がなく、二層目の武家造り部分から金箔が張られています。これは、「公家より武家の方が位が上」であることを示したものだそうです。

「世界で最も美しい」と言われる金閣。バスを降りて歩いていくと、「うわあ〜」と思わず声が出てしまうような、金色の建物、金閣が現れました。まるで写真でも見ているかのようです。「なるほど金だ！」でも、「とにかくすごい外国人観光客」とサッキーに言われたとおり、まるで満員電車のような人混みです。そんな中、金閣が池にくっきりと映し出されている「逆さ金閣」が見える絶好の場所で、「早く早く」「他の方の迷惑にならないように」などと、周囲にちょっと気兼ねしながら、班ごとに記念撮影。いいのが撮れました。その後、夕日が美しく見える「夕佳亭」、足利義満が「お茶を飲むときに汲んでいた水」と言われる「銀河泉」、「お手洗いの水」であった「巖下水」、さらには「鯉魚石(りぎょせき)」が置かれている「龍門滝」を見学し、金閣寺をあとにしました。



6 東映太秦映画村「お化け屋敷に 入るの 入らないの？」

「東映太秦映画村」に到着です。これまでたくさんの貴重な文化財を見て来ました。「英語活動」「京都友禅染」も楽しかったです。でも、やっぱり「ここに来るのが一番の楽しみ」という人が多いでしょう。何と言っても楽しいアトラクションがいっぱい。おいしい食べ物もいっぱい。買いたいお土産もいっぱいです。ところが、ポツリポツリと雨が…。それほど気になるほどではないのですが、「ひょっとしたら、これから激しくなるのでは…」といった感じも…。何とか「これくらいの状態で、ひどくならなければいいのに」と願いながら入場。集合場所である「中央広場」で係の方から詳しい説明を聞いたあと「スタジオマーケット」でおいしいカレーを完食(ホントに全員完食でした)したら、班ごとにまとまって映画村へとくり出して行きました。「どこに入ろうか…」 班の中でも意見はいろいろだとは思いますが… さてどうなる？

話題の中心は何と言っても「お化け屋敷」です。「ねえ、入ろうよお」「私、絶対入らないから」などと激しく話し合っています。でも別にもめているわけでもなく、楽しそうです。「1組4人まで」ということなので、ここでは一端、班を解体して、「入りたい人」で4人組をつくっています。出てきたら「もとの班に戻る」ということなので、「お化け屋敷」に関しては、それもOKでしょう。そのすぐ近くにある「からくり忍者屋敷」も大人気。入るのに「30分待ち」でも、おしゃべりしながら並んでいます。出てきたら忍者人形と記念撮影。ここで、気になる雨が強くなってきたぞ…。一時「雨具がいるかなあ」と思ったりしましたが、すぐに小降りとなり、何とか、最後まで広ーい映画村を楽しむことができました。いっぱい遊んでお土産買って、最初の中央広場へと全員、無事戻ってきました。



7 奈良・京都をあとにして…「来年の6年生も お願いします」

1泊2日の修学旅行も全日程を終了。午後3時30分、東映太秦映画村を出発し、懐かしの多可町へと向かいます。雨が強くなってきましたが、バスの中なので大丈夫。サッキーから、「ゲームをしますか、眠りますか、ビデオを観ますか」との質問があり、「ビデオ」に決定。でも、眠ってもいいのです。食べてもOK。「観てるか、寝てるか、食べてるか」… それぞれがゆったりとした時間を過ごしました。さて、ビデオが終了。この2日間、お世話になったサッキーが久々にマイクを持たれます。そして、「この2日間、松井小学校6年生のみなさんと一緒に、楽しく過ごさせていただきました修学旅行も、いよいよ終わりへと近づいて参りました」… そして、1日目の奈良、法隆寺から、京都、東映映画太秦村までの楽しかった思い出を振り返るかのように、優しい声で話をしていただきました。また、児童代表からは「来年度の6年生も、ぜひお願いします」と素敵なあいさつがあったあと、最後はみんなそろって「ありがとうございました」

8 夢の「奈良・京都」から愛する「多可町」へ

バスがゆっくりと安全運転を続けます。どうやら、お迎えの時間に合うようにスピードを調整されているようです。さすがプロです。到着時刻は何時になるでしょうか。楽しみです。さて、いよいよ多可町へと戻ってきました。窓の向こうには見慣れた景色が広がります。「奈良・京都ともつながっているんだなあ」などと、あたり前のことに感動しながら、そろそろ到着です。道を曲がってしばらく進むと松井小学校。大きなバスが門を入ろうかというそのとき、何と時刻は17時45分。ピッタリの到着時刻でした。運転手さんに大拍手。ピロティには、多くの保護者の皆様の姿が見えます。寒い中、お迎えありがとうございます。家族の方へのお土産を手に、元気に帰ってきた6年生たち。いろんな方々にお世話になりながら、最高の友と一緒に 夢のような2日間を、奈良・京都で過ごしてきました。

「解散式」を終えたあと、お家の方と家路に向かいます。この日の夜は、奈良・京都の夢を見ながら、ぐっすりと眠ったことでしょう。

「楽しかった修学旅行」 みんなの思いをつなぎ合わせました

●11月11日～12日までの1泊2日の、待ちになった京都・奈良への修学旅行がありました。●僕の修学旅行のめあては、「めいっぱい楽しむ」とことと「ルールを守ること」です。●わくわくしながら荷物の最終チェックをして、ナップサックを背負いました。学校に着くと、大きな荷物を持ったみんながいました。バスに乗って2時間ほど、みんなでスタンプをして大爆笑しました。●そうこうしているうちに法隆寺に着きました。心に残ったのは五重塔です。すごく高いし形も良かったです。●次は奈良公園で、外国の人と話をしたときに… ●自分から「サインしましょうか」や「ハイタッチ」をしてくださいました。●「日本のどんなところが好きですか」と聞くと、「日本人、君たちのような人が好き」と言ってもらって嬉しかったです。●その後、大仏殿に行きました。中に入ってみたら、予想していた以上に大きかったです。大仏様の鼻ぐらいの大きさの穴があいた柱をくぐりました。●春日野では、おいしいご飯を食べた後、一階で買い物をしたり、外で鹿せんべいをあげたりしました。服を何回かかまれたりして、ちょっと怖かったけど、とても楽しかったです。●清水寺では、音羽の滝の「学問の水」を飲みました。頭が良くなったかはそんなにわからないけど、良くなってほしいです。●清水坂にはたくさんのお店がありました。八つ橋や京バーム、お漬け物屋さんなど多くありました。私はたくさんの人にお土産を買いました。とっても喜んでくれました。●ホテルはとても楽しかったです。ご飯のときは、「ちびまる子ちゃん」「サザエさん」を見ました。寝るときは楽しみで仕方ありません。僕は思わず勢いで2時まで起きていました。●二日目、銀閣寺に行って、とても美しい庭を見ました。●庭の様子はしましまになっていて、すごくきれいでした。●二条城は、中は広くて虎の絵や松・桜などの絵もたくさんありました。ウグイス張りの廊下はすごいと思いました。そして昔の人が歩いたところを歩くことができ不思議な気持ちになりました。●その後、友禅染をしに行き、とってもいいハンカチができたので、しっかりアイロンをかけて、使うのが楽しみです。●金閣寺は「本当にキラキラ光っているのかな。本当はあんまりなんじゃないかな」と思ってしまっていた… ●でも実際は、金閣寺の見どころは、20万枚の金箔が張ってあることだけど、しっかりと輝いていて、きれいに金箔が張ってあって、すごく感動しました。●その後は、みんな待ちに待った映画村です。歩いていると、忍者の服を着ている人もいました。面白いです。ぼくらはお化け屋敷に始めに行き、4人で回って怖かったけど、みんなで頑張って通りました。すごく楽しかったです。●修学旅行、とっても心に残った最高の思い出になりました。●みんなとの絆が深まったと思います。これからもみんなと協力して、この絆を生かしていきたいです。●家族や友だち、先生に「ありがとう」を言いたいです。





平成30年度 松井小学校 修学旅行 思い出のミニアルバム

